

かすがいシティバスアンケート調査結果について

1 調査の目的

本調査は利用者数が他路線に比べて少ない北部線沿線の住民に対して、日常的に利用する交通手段やシティバスの認知度等を調査し、今後の利用促進につなげるものである。

2 調査の概要

アンケート配付日	2010年12月3日～10日の8日間
調査対象	北部線沿線地域（牛山地区）
配付・回収方法	各町内会長にアンケートの配付及び回収を依頼
配付数	2,225通
回収数	1,484通
回収率	67%

3 調査結果

(1) 個人属性（性別・年齢）

回答者の7割強が女性である。年齢別では、回答者の6割強が60歳以上である。

図1 性別

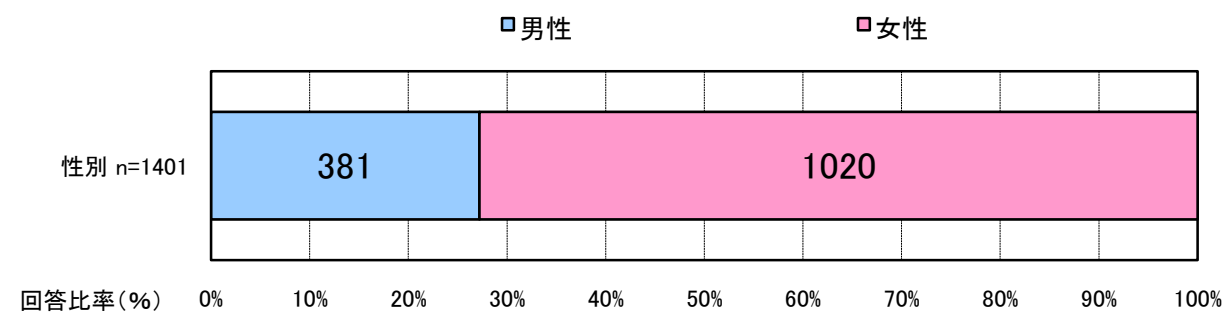
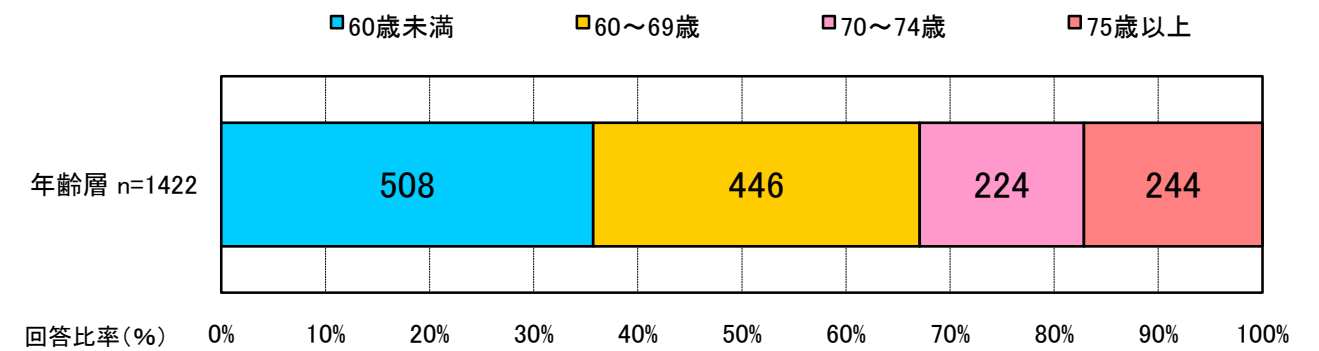


図2 年齢



(2) 沿線住民の日常的な【買い物】について

買い物の行き先としては、西高山町にあるバロー（春日井西店）が最も多く、次いで、小牧市のジャスコ（小牧店）、岩野町にあるナフコ（岩野店）と続いている。バロー、ナフコについては北部線のバス停近くに店舗があり、シティバスを利用して買い物に行くことが可能である。

買い物をする時の主な移動手段として、自家用車が939件と多く、シティバスの利用は42件であった。

年齢層別で見ると、シティバス利用者は70歳以上が32件となっている

図3 日常的な買い物の行き先

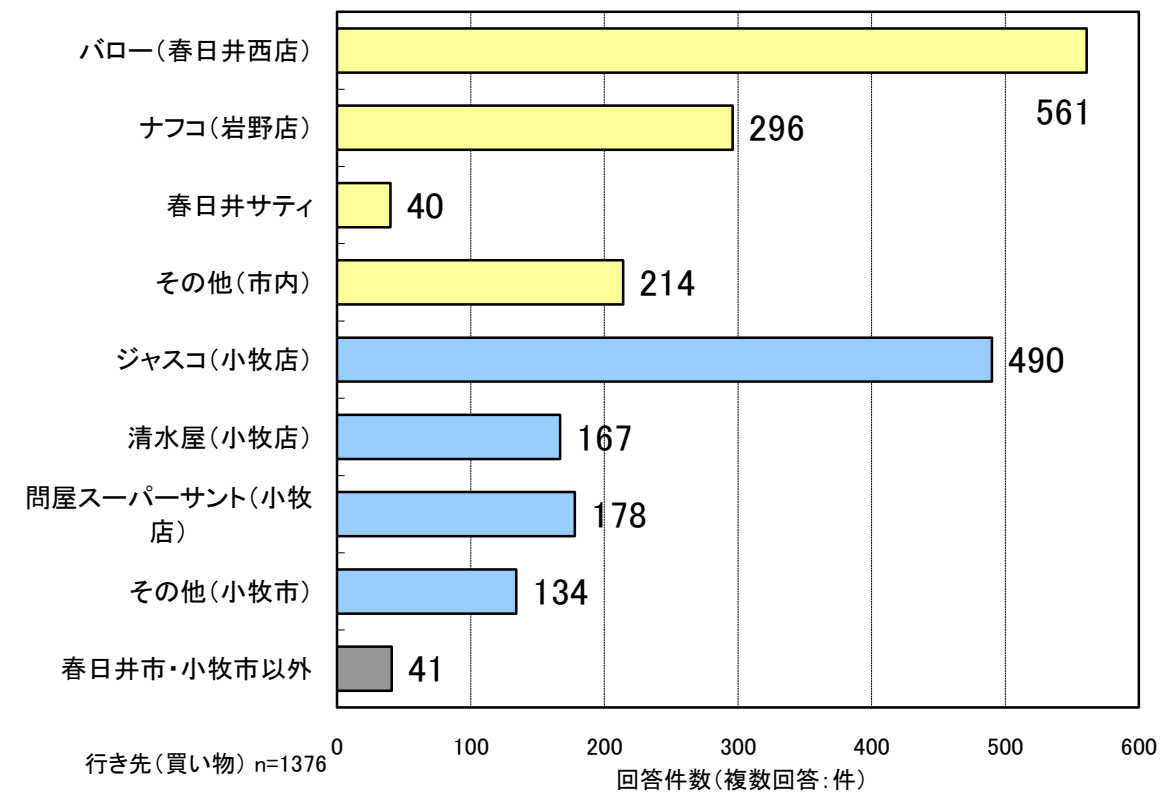


図4 主な移動手段（買い物・回答者全体）

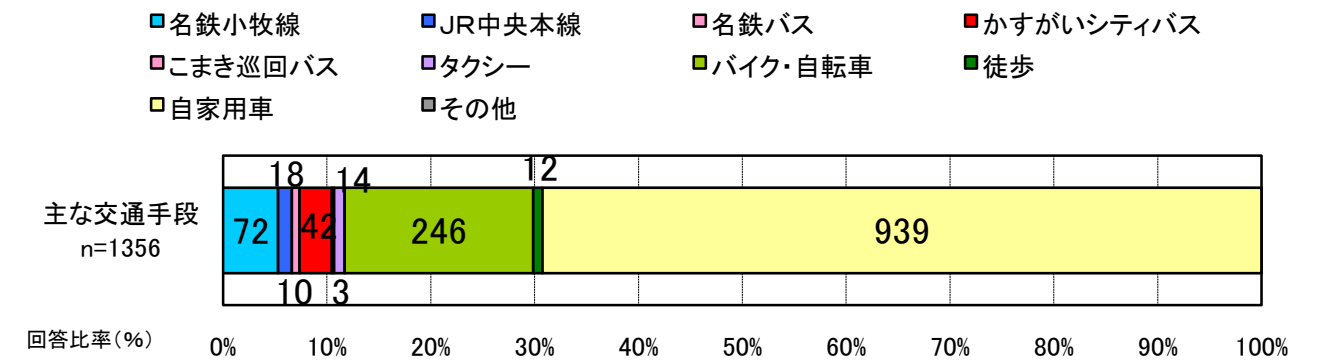
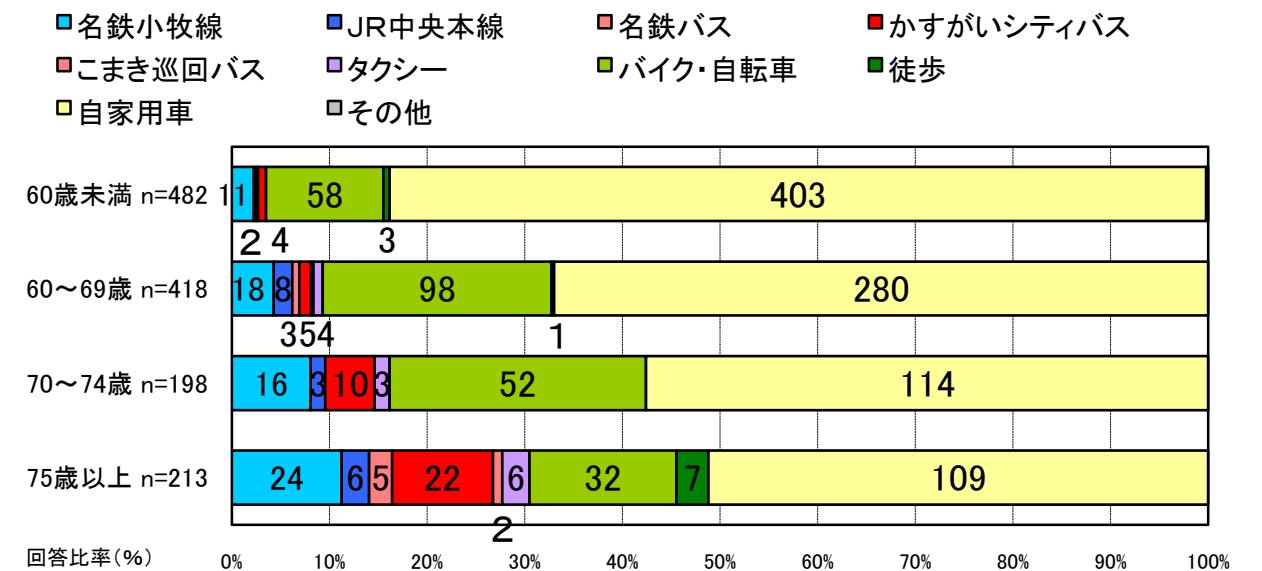


図5 主な移動手段（買い物・年齢層別）



(3) 沿線住民の日常的な【通院】について

通院先としては、春日井市内の医療施設が多く、次いで春日井市民病院、小牧市内の医療施設の順となっている。

通院の主な移動手段として、自家用車が500件と多く、シティバスの利用は58件であった。

年齢層別では、シティバス利用者は70歳以上が44件となっている。

図6 日常的な通院先

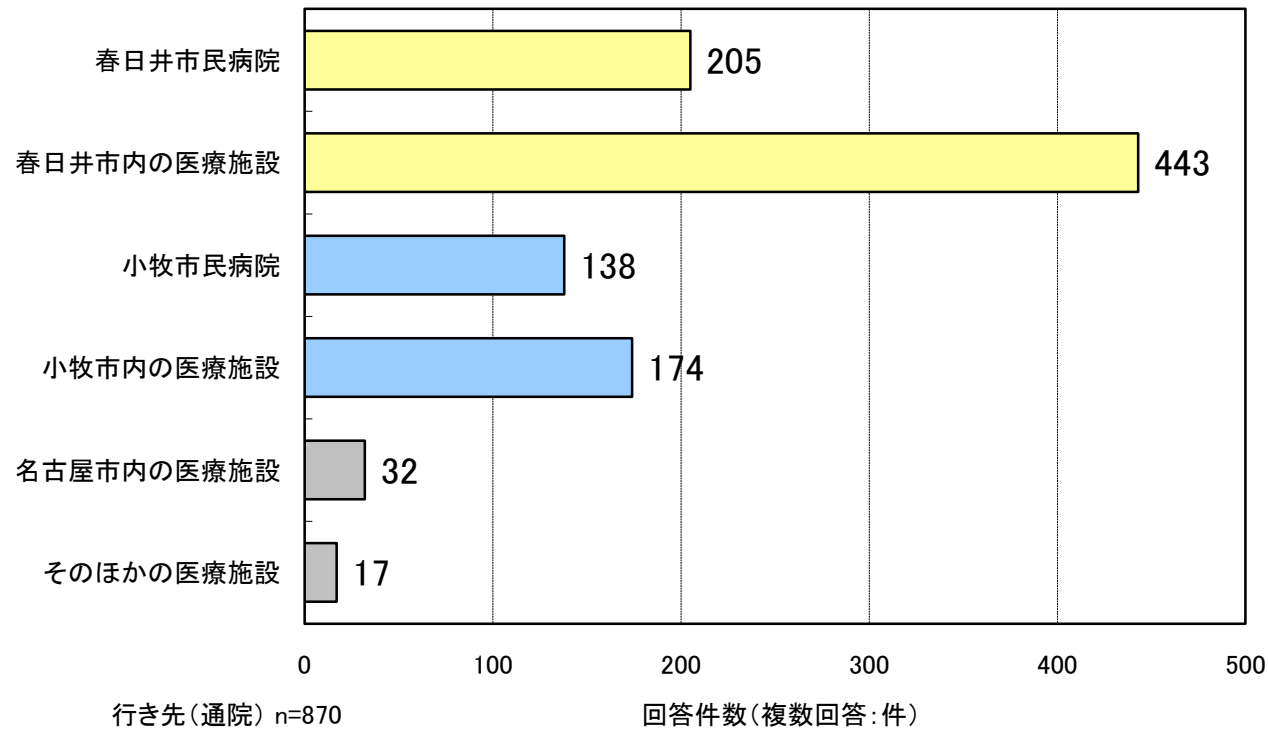


図7 主な移動手段(通院・回答者全体)

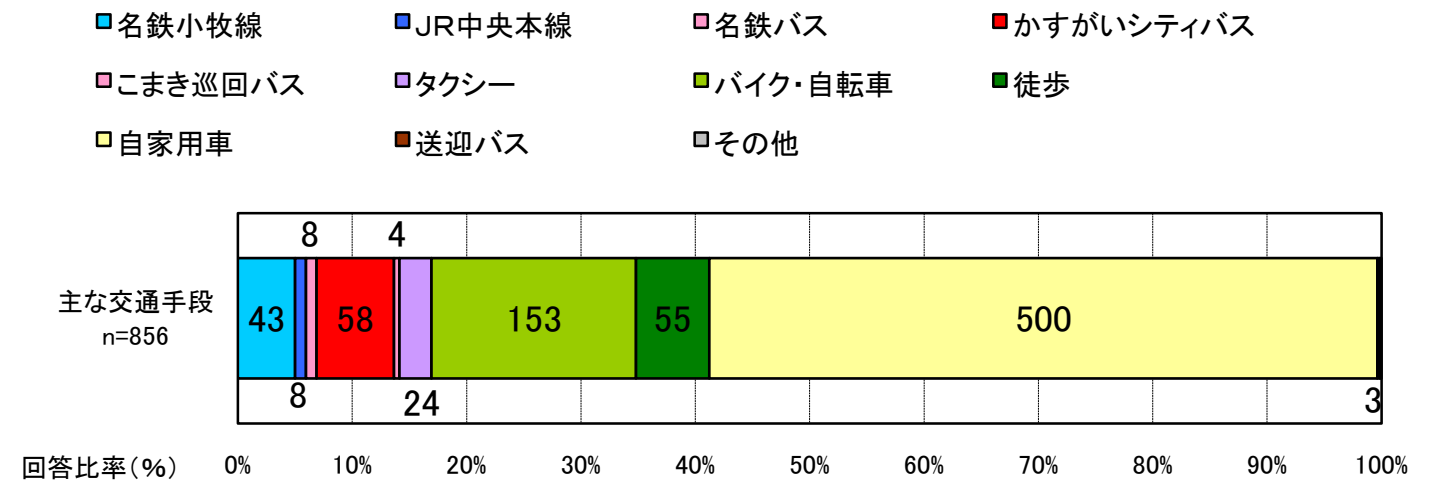
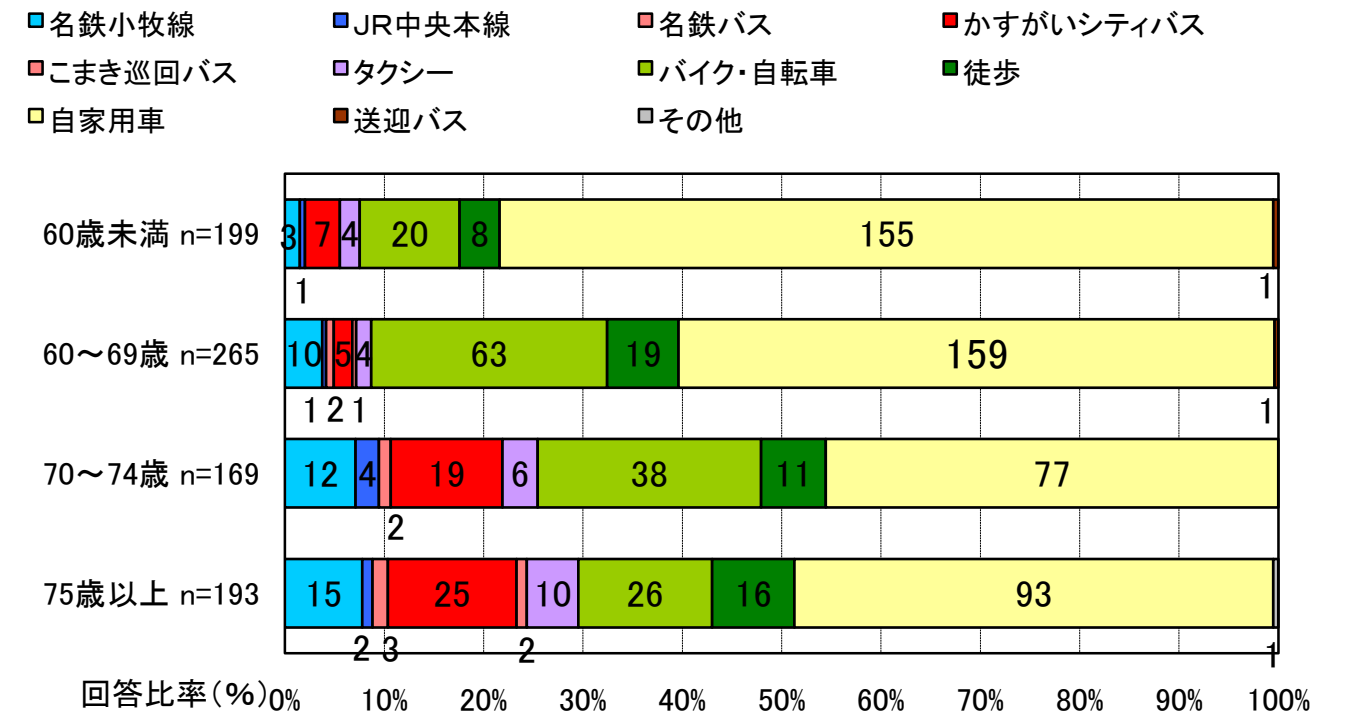


図8 主な移動手段(通院・年齢層別)



(4) 沿線住民の日常的な【公共施設等】の利用について

公共施設では市役所、次いで総合体育館及び西部ふれあいセンターの順となっている。公共施設以外として、近隣の郵便局・銀行という意見が多くあった。

公共施設に行く時の主な移動手段として、自家用車が433件と最も多く、シティバスの利用は50件であった。

年齢層別で見ると、シティバス利用者は70歳以上が35件となっている。

図9 日常的に利用する公共施設等

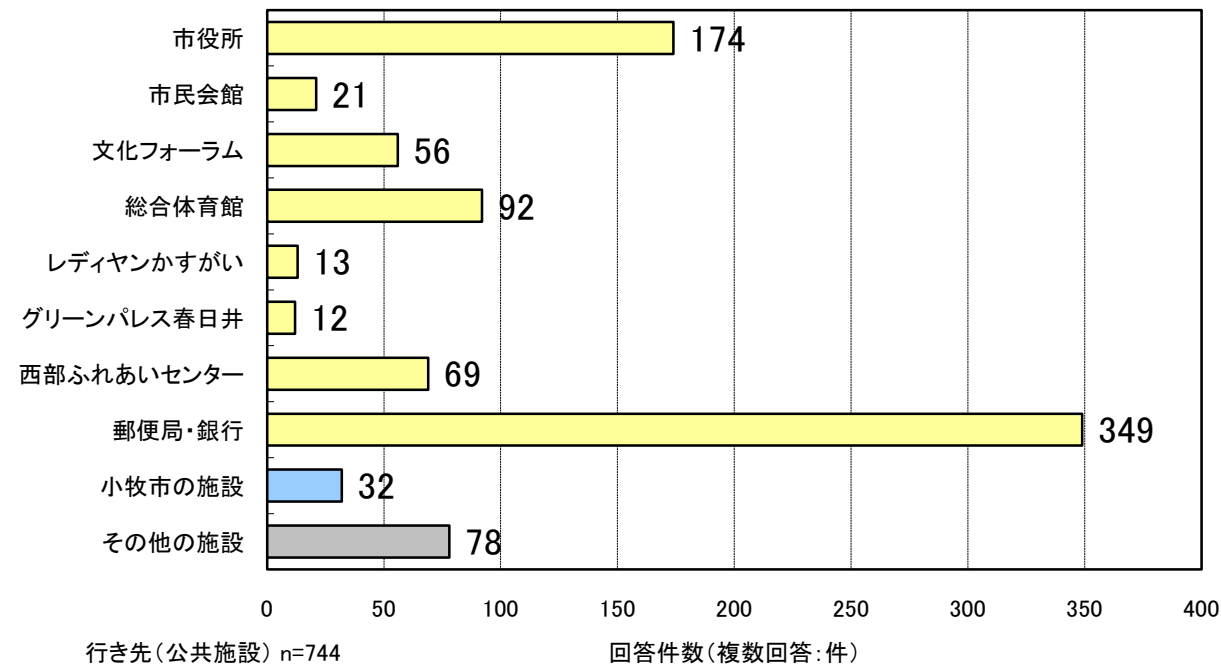


図10 主な移動手段(公共施設等・回答者全体)

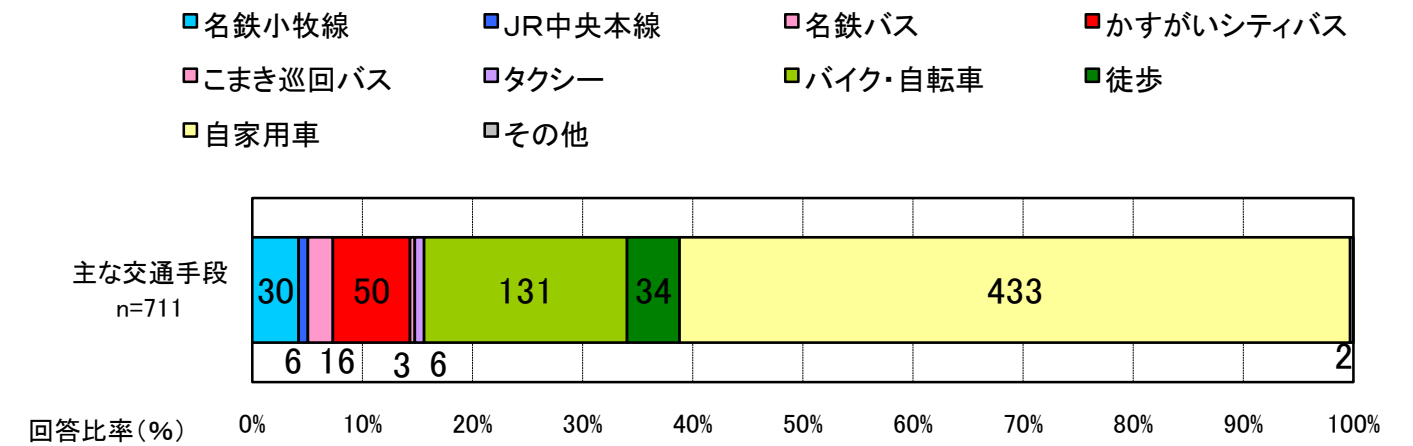
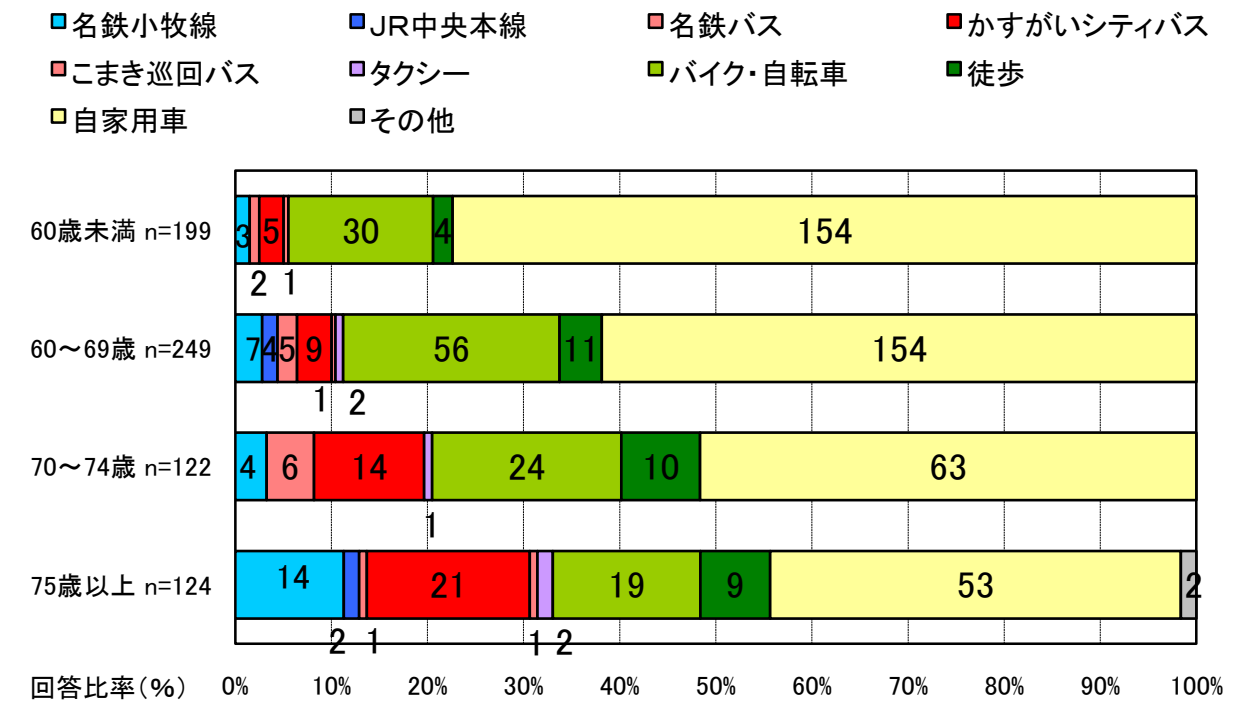


図11 主な移動手段(公共施設等・年齢層別)



(5) 北部線の運行情報等の認知度

運行情報の認知度については、全体の8割である946件が運行していることは知っているが、シティバスを利用する際に必要な情報は有していない。

年齢層別で見ると、他の年齢層と比べて、シティバスを日常生活で利用していると回答が多かった70歳以上の高齢者でも、シティバスを詳しく知っているとは回答した人は半数にも満たない結果となった。

図12 北部線の認知度（回答者全体）

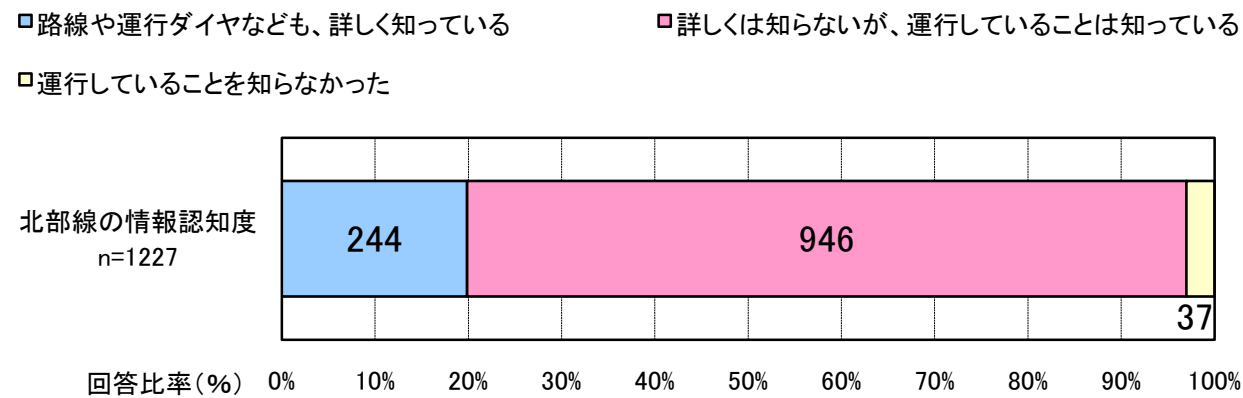
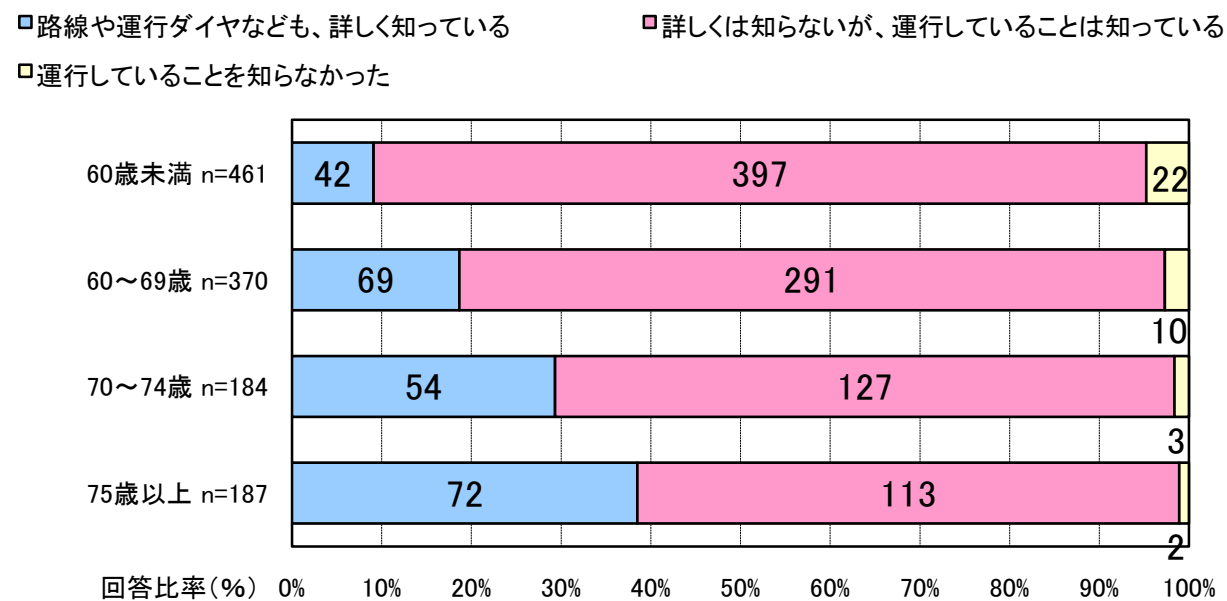


図13 北部線の認知度（年齢層別）



4 まとめ

アンケート結果として、沿線住民の日常的な買い物（バロー、ナフコ）、通院（春日井市民病院）及び公共施設等（春日井市役所、総合体育館）の行き先の多くは、北部線を利用して行くことが可能であり、北部線沿線の牛山地区の住民の移動目的をある程度満たしていると考えられる。

しかし、住民の多くの移動手段は年齢層に係らず自家用車である。また、シティバスを多く利用している70歳以上の高齢者の中には、移動手段は自家用車を利用している方やシティバスに関する詳しい情報を知らない方が多くいるため、移動手段の中からシティバスを外している可能性がある。

これらの結果を踏まえ、今後は少しでも利用者が増えるように、移動手段が自家用車の人に対してシティバスへの転換を促すことやシティバスの認知度を高めるようなPR活動を行っていく必要がある。